

# 「進行期肺癌における患者自己式による主観的包括的栄養評価の臨床的意義の検討」の研究について

## 1. 研究の対象

2022年1月から同年8月31日までの間に当院呼吸器内科に肺癌治療のため入院となった患者さん

## 2. 研究目的・方法

癌患者さんでは身体に取り入れられた食物を代謝して糖として消費したり蓄えたりするはたらき(糖代謝)が過剰に進んでしまうことやサイトカインとよばれる免疫に関係するタンパク質の産生が増加することによって癌患者さんの80%程度でがんと診断された時に既に低栄養状態に陥っていることが知られています。この低栄養状態がづくると免疫力は弱くなり、体重が減少し、食欲が低下するようになり、強いては余命短縮や入院期間の延長、合併症の増加などを招く危険性があることが知られています。そのため、栄養状態を早期に評価して、適切なタイミングで栄養療法やリハビリテーションを介入できることが重要と考えられます。

癌治療の臨床において、栄養状態を把握し評価する手段の一つに栄養評価ツールが使用されます。その中で患者さんに質問表に答えていただき、皮下脂肪や筋肉量の減少、浮腫などの簡単な診察のみで施行できる簡便な栄養評価ツールとして自記式による主観的包括的評価(Patient-Generated Subjective Global Assessment; PG-SGA)が広く使用されています。近年、このPG-SGAスコアリングが放射線治療を行うことによって起こる副作用である放射線肺炎やがんの進行に伴って起こるがん悪液質の予測因子となる可能性が示唆されるなど、これらの有用性についての報告がされております。しかしながら、実際の肺癌治療における栄養状態の評価の重要性が高まってきている一方で、PG-SGAスコアリングの結果と実際の患者さんの病状や検査値などとの関連についての報告は少なく、同スコアリングの臨床的な意義については十分にわかっていないという問題点が残っています。

そこで今回、過去の電子カルテ情報を用い、栄養状態と肺癌患者さんの状態に関係性があるかを解析する研究を行うこととしました。

研究機関は病院長許可日から2023年12月31日までです。

## 3. 研究に用いる情報の種類

情報：病歴、性別、年齢、身長、体重、BMI、Performance status、肺癌治療 line 血液データ (Hb ALB CRP) PG-SGAスコアリング

## 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、

研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

静岡県磐田市大久保医 512-3 磐田市立総合病院

研究責任者 呼吸器内科 原田 雅教

電話：0538-38-5000